

<p>特定テーマ①</p>	<p>より安心して利用できる庁舎 耐震性の高い建物とし、災害時の電力等の確保や、情報管理の徹底等により、防災機能やセキュリティ機能を強化した庁舎</p>
---------------	--

『平常時』『災害時』に高い安全性と機能維持に優れた庁舎

人も車も安全にアプローチできる配置計画

街路に開いた、まちに顔をだす配置計画

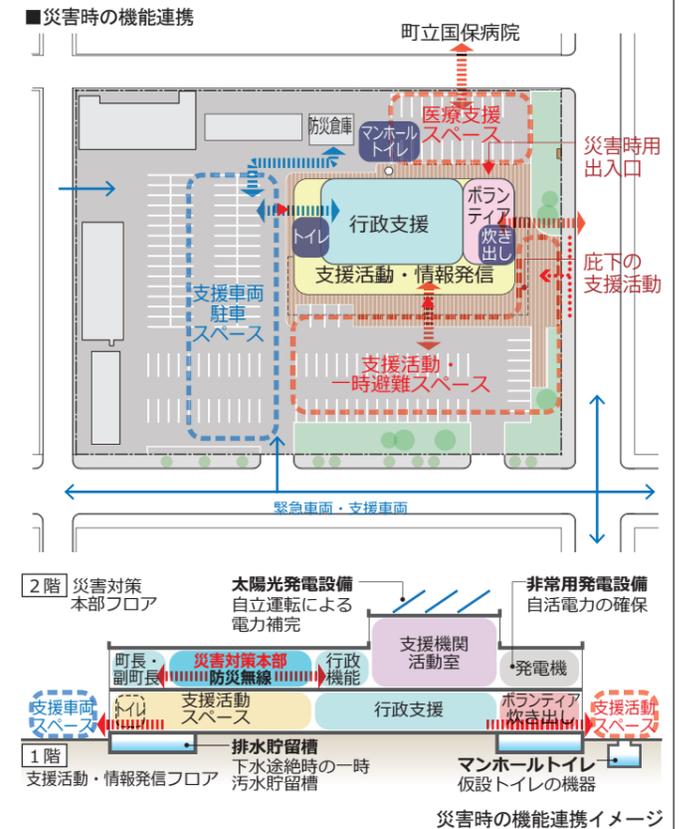
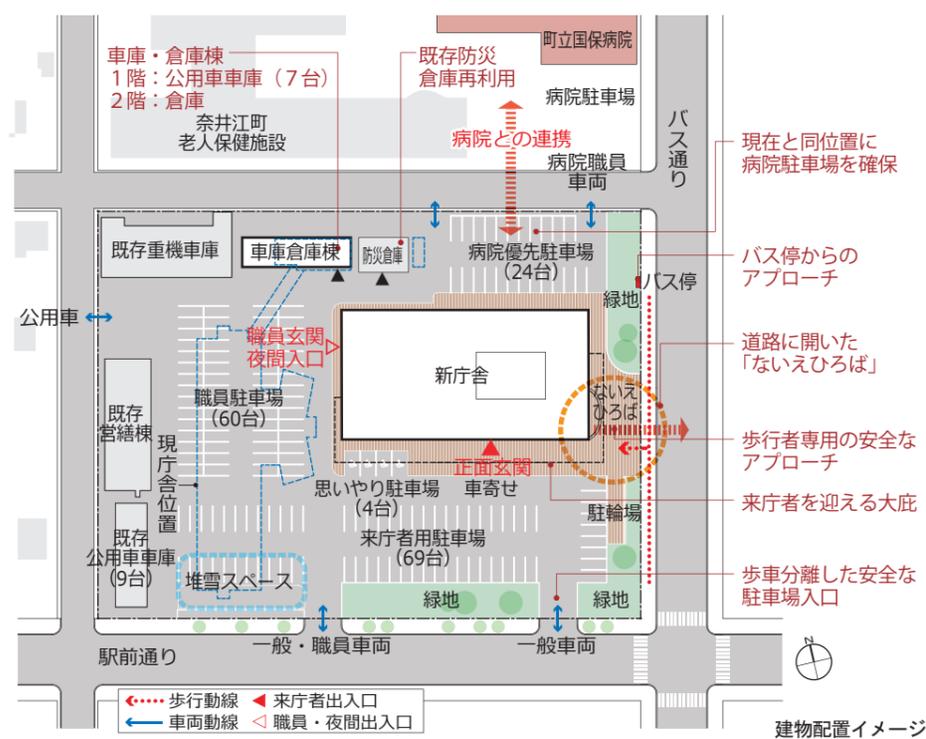
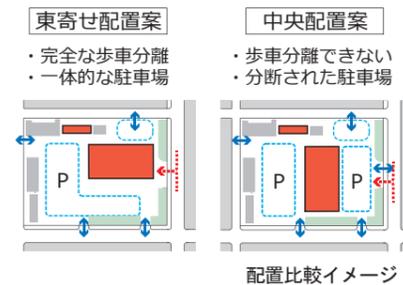
敷地東側のバス通りに面して庁舎を配置し、「ないえひろば」と歩行者アプローチを街路に直接開くことで、アクセスしやすく、庁舎の賑わいがまちから見える、親しみやすい庁舎の顔をつくりまわす。

歩車分離と季節風に配慮した安全なアプローチ

・駐車場入口は敷地南側駅前通りに集約し、歩車分離を徹底した安全なアプローチ計画とします。
・庁舎入口は、冬の季節風の風下で庇に守られた南側に、庁舎・保健センター・子育て支援センターを集約した正面玄関を、西側に職員・夜間出入口を設けます。

安全で使いやすい駐車場

・駐車場は広く一体的に確保することで、来庁者と職員の駐車スペースをゆとり配置します。整形で除雪しやすく堆雪場所も確保でき、イベント利用も可能です。
・病院優先駐車場は既存と同じ場所に確保します。
・屋外スペースをまとめることで将来の施設整備の余地を確保します。



適正なりリスク想定に基づく災害時に頼れる庁舎

奈井江町の気象・地盤・都市インフラ等の立地特性を把握し、地震、水害（豪雨洪水）、台風、大雪、火災、ライフライン断絶に対する最適な対策を設定します。

地震 ▶ 経済的で耐震性の高い鉄筋コンクリート造

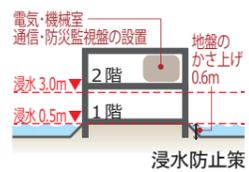
・庁舎の構造は、剛性が高く、耐火・耐水性に優れた鉄筋コンクリート造とします。耐震要素を効果的に配置し、制振装置や免震装置を使わずに経済的に耐震安全性を確保します。

構造形式	耐震	制振	免震
特徴	建物の強度と粘りで揺れに抵抗	制振部材で揺れを吸収	免震装置で建物を浮かせ揺れを吸収
耐震性能	◎	○	△
コスト	◎	○	△

構造形式の比較検討

水害 ▶ 床レベルのかさ上げ、インフラ設備を2階に集約

・本敷地は、浸水想定深0.5m未満／～3.0m未満の2区域にまたがります。浸水深が浅い東側に建物を配置し、1階床高を周囲より0.6mかさ上げして浸水被害を抑えます。



・電気室、非常用発電機室、機械室、サーバー室を2階に配置し、浸水深3mの浸水からも重要機器を守ります。

火災 ▶ 避難しやすく延焼しにくい2階建て庁舎

・耐火構造と防火区画により延焼を防止し、2階建ての回遊型平面により、逃げやすく避難安全性の高い計画とします。

経済的で安全な構造計画

自由度と耐震安全性を両立させる経済スパン

・シンプルな長方形平面と効率的な柱配置により、経済合理性を追究した構造計画とします。
・耐震壁を外周部やコア周りにバランスよく配置することで、執務空間の自由度を高めつつ、耐震安全性に優れた構造計画とします。



堅牢で経済的な基礎計画

・地震時の地盤性状の変化や地下水位の高さを考慮し、杭基礎や直接基礎などの中から最適な基礎形式を選択します。

地震による外装や二次部材の落下防止

・外装や天井などの二次部材、天吊り設備機器等の非構造部材は、耐震固定を施し安全性を確保します。

明快な管理区分によるセキュリティの強化

来庁者動線と職員動線の分離

・出入口は来庁者用と夜間職員用の2か所に限定し、入退管理のしやすい動線計画とします。
・職員と来庁者の動線を明確に区分し、重要エリアにはICカードによる入室管理や監視カメラの設置等を検討します。

エリア毎に管理ラインを設定

・閉庁時の部分的な開館や、多くの関係者が出入りする災害時など、利用状況に応じた管理ラインを形成します。

平時から災害対策拠点への素早い機能転換

周辺公共施設と連携する機能的な敷地ゾーニング

・災害時には緊急車両・支援車両の出入りと駐車スペースを西側に集約し、歩行者と車両が交錯しない計画とします。
・バス通りに面した「ないえひろば」は、来庁者駐車場と一体で支援活動や一時避難スペースに転換し、大きな庇の下は物資の仕分けや炊き出し等の作業スペースに活用できます。
・病院優先の駐車場に面して災害時用の出入口を設け、医療分野の連携スペースとして活用できます。

1階：指定緊急避難場所として支援活動・情報発信フロア

・1階は指定緊急避難場所として、支援活動・情報発信と同時に、災害復旧のための行政支援の場に転換します。
・町民ホールや会議室、交流活動室などをボランティア等の活動スペースに転換します。
・エントランスは災害情報の提供や携帯充電、掲示板など情報発信拠点に転換します。
・保健センターの調理コーナーは炊き出し場に転換できます。

2階：司令塔として機能を発揮する災害対策本部フロア

・浸水3mの洪水時にも浸水の影響を受けない安全な2階に災害対策本部機能を配置します。
・町長室、対策本部となる会議室、防災放送室を近接して配置し、迅速な情報共有・連携を優先した配置とします。
・1階の一時避難場所と明確なセキュリティ区分が可能です。

自活した災害対策拠点となるバックアップ機能

3日以上災害拠点機能が維持できる設備

・非常用発電機により停電時の電源を3日確保します。
・飲料水ペットボトルの備蓄スペースを確保するほか、手洗い等の使用を考慮して受水槽に一定量を貯水します。
・排水用一時貯留水槽を設け、汚水管が破損した場合でも1階トイレが数日間利用できるようにします。

災害長期化に備えた、設備のバックアップ対策

・非常用発電機に加え、外部電源車の接続対応や太陽光発電を利用した蓄電設備を検討します。
・燃料備蓄量に余裕を持たせ、災害時でも暖房を継続して運転できるようにします。
・照明や空調は省エネモード設定可能な高効率機器を採用して、消費電力を抑えた災害時対応を可能にします。

<ライフライン>	<継続機能>	<設備のバックアップ>
電力	電源確保	電力引込の2系統化 非常用発電機（油3日分） 電源車接続対応（長期停電時の対応） 太陽光発電
通信	通信継続	通信引込の2系統化 簡易無線（防災行政、一般、ヘリ無線） 衛星通信回線
油	熱源・空調	油の貯蔵 非常用発電機からの電源バックアップ
上水	飲料水	受水槽（3日分） ペットボトル備蓄
下水	トイレマンホールトイレ	雑用水槽（3日分）

自活できる庁舎とライフラインの確保